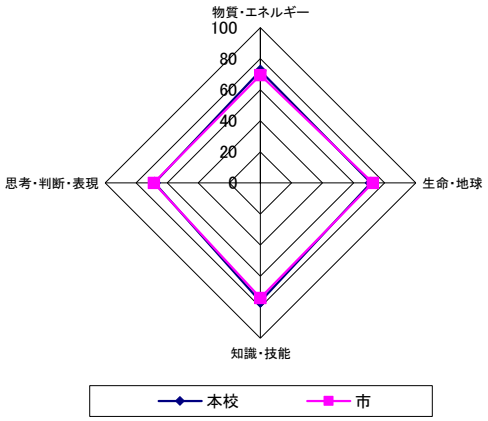
宇都宮市立東小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.2	69.5	65.2
	生命・地球	71.1	72.3	70.1
観点別	知識・技能	76.4	74.0	70.7
	思考・判断・表現	68.2	68.7	65.5

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は72.2%であり，市の平均より2.7P高い。 ○「ふりこのきまり」，「物のとけ方」においては，全ての問題で市の平均を上回っている。科学的な事象からその規則性や性質を多角的に捉え，的確に表現する力が身についてきていると考えられる。 ●「電流のはたらき」においては，電磁石の極の変化と電流の向きの関係について答える問題，電磁石のはたらきを強くするためのつなぎ方を作図する問題では，誤答が多く，市の平均より約21P低い。	・乾電池の数やつなぎ方によって電流の大きさが変わることをおさえ，電流の大きさやコイルの巻き数を変えることで電磁石の強さが変化することを，実際に検流計を用いて比較しながら調べられるようにする。また，結果を表などを用いてまとめ，電磁石の強さと電流の大きさ・コイルの巻き数を関係づけて考察し，理解できるようにする。その際，実験の結果を回路図や文に表して書く活動を増やしていく。
生命・地球	平均正答率は71.1%であり，市の平均よりやや低い。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」においては，全ての設問が市の平均を上回っている。 ●「植物のつくりとはたらき」においては，全ての問題で市の平均を下回っている。特に，予想をもとに根の断面の様子を推測する問題では，正答率が55.2%であり，市の平均より約16P低い。	・児童が見通しをもって学習問題に向き合い，自分の考えをもって問題解決を行うことができるようにするため，仮説を立て，観察・実験計画を立てるなどの段階の指導の充実を図る。実験・観察結果や考察・分かったことを，自分なりの方法で絵や文で分かりやすく表現する活動を意図的に取り入れる。 ・実際の観察・実験が困難な単元は，模型やICT機器等を活用し，分かりやすい授業展開に努める。 ・学習内容と身近な自然現象を結び付けて考えられるようにするため，学習したことが生活の中で確認できる場面を紹介したり，実生活で活用されている場面について話し合う活動を取り入れる。